

税 額 に つ い て

<ポイント>

○過重とならない負担水準で、簡素で公平な制度であること。

<先進事例や意見などを参考にした比較>

①福岡県を参考に、道内での道税と市町村税を合わせた税額を基本的に一定とする。

税額の例	◎道税を200円とする。
200円	◎ただし、市町村が宿泊税を導入する場合は道税を100円とし、市町村税と合わせて200円を基本的な税額とする。
メリット	◇基本的な税額の地域較差がなく納税者に分かり易く、他県等の水準も上回らない。
デメリット	◆市町村では、それぞれの財政需要に見合った税収の確保が困難。 ◆福岡県は、宿泊税導入市町村の区域では、県税を100円に減額することとしているが、特例で福岡市と北九州市内での税額は県を50円としており、道税を50円とした場合は税収が減少する。

②他県等の水準などを参考に道税の税額を設定し、導入市町村は独自に税額を設定する。

税額の例	◎道税を200円とする。
200円	◎ただし、市町村が独自に宿泊税を導入する場合は、道税を100円とし、市町村は、それぞれ条例を定めて用途に見合った税額を設定。
メリット	◇各市町村は用途に見合った税収が確保でき、課税自主権が尊重される。
デメリット	◆基本的な税額の地域格差が生じ、他県等の水準を上回ることも想定される。

③東京都や大阪府の最低税額を参考に道税の税額を設定し、導入市町村は独自に税額を設定する。

税額の例	◎道税を100円とする。
100円	◎市町村が独自に宿泊税を導入する場合は、それぞれ条例を定めて用途に見合った税額を設定。 ※市町村と連携した取り組みは、必要性等を勘案し重点化して実施を検討。
メリット	◇各市町村は用途に見合った税収が確保でき、課税自主権が尊重される。
デメリット	◆基本的な税額の地域格差が生じ、他県等の水準を上回ることも想定される。